



おひざのうえで 2022

(副園長の子育て応援通信)

5月「子どもの危機察知能力」

せんりひじり幼稚園

副園長 安達かえで

連休中、どのように過ごされましたか。3年ぶりに行動制限のない連休。山や川や公園に遊びに行かれたご家庭が多かったのではないのでしょうか。

我が家は、娘の家族が二人の孫を連れて帰省しました。帰省している間に、もうすぐ10か月になる孫が、1歩2歩と歩き始めました。つかまり立ちをしていたかと思うと、手を離してヨタヨタぐらつきながら一歩足を出します。周りのみんなが喜ぶものだから、本人も嬉しそうに一歩・一歩……。ばあばは、後ろに倒れて頭を打たないか、前に倒れて顔を打たないか……。心配で、はらはらしながらついて歩くと、娘が言いました。「たいてい大丈夫だよ。日ごろから危機察知能力を意識して育てているから……。」と言って、にやり。確かに後ろにバランスを崩すと、上手にひざを曲げておしりをつきます。前にバランスを崩すと、ちゃんと手を着きます。横に倒れると体を丸めてうまく転がります。つかまり立ちの時から、バランスを崩しているうちに上手に転ぶようになったようです。娘は、大きな怪我にならない程度に、見守ってきたとのこと。ベッドから這い出して身を乗り出すようになった時は、落ちる寸前に、握っていた服の裾を引っ張って大けがにならないようにしてきたとのこと。「何でもかんでも親が止めていたら、自分で危機察知ができなくなって逆に大けがをするから、危なくなるまで見守っている。」と、元保育者としての経験から話していました。子どもは様々な経験を通して、自分で考えて行動していきますが、こんなに小さな時からその能力が芽生えていくものなのですね。特に昨今、社会全体で「主体性」が育つことを大切にしていますが、そういった危機察知能力も感じる経験も主体的な活動を通して備わっていきます。必要以上に大人が先回りをしすぎないように、子どもを信じて見守っていききたいですね。

また、3歳になった孫娘は、朝から寝るまでしゃべりっぱなしです。「なんで飲むヨーグルトと飲まないヨーグルトがあるの？」の質問に「固さが違うからかなあ」といい加減に答えていると、「なんでなの?!」と怒り出します。一つ一つ言葉で説明しながら、毎日丁寧に関わっている娘夫婦には頭が下がります。「内心メッチャイラつくときあるけどね。」と娘はつぶやいていましたが……。「楽しい・嬉しい」の感情も豊かになった一方、納得しないとやらない年頃に差し掛かってきました。「着替えたくない」「トイレに行きたくない」「食べたくない」の「いやいや」が出てきたら、「○○だからこうだよ」の前向きな説明つきで向き合うことが必要になってきますから大変ですね。

自我がさく裂しているときは、まずは子どもの思いを受け止めることが大切ですが、受け止めるばかりでは、子どもはどこに向かっていけばいいのかわからなくなります。受け止めつつも「でもね」と切り返し、子どもの社会的参照になるように向き合っていきたいですね。根気がいりますが、あとで結果がついてきます。努力は必ず報われますから頑張りましょうね。

うさぎ組の靴箱の前には、「カア～カア～、あ、おとしものだ！もらっちゃおう～」と紙のカラスが風に揺られて飛んでいます。入園当初は、上靴と外靴の履き換えに慣れないため、脱いだ靴が部屋の前に散乱している状態だったので、かほ先生が「カラスがいいもの見つけたと思って持って行っちゃうかも・・・」とカラスの絵を貼っておいたようです。すると、脱いだ靴を靴箱に入れて、お友達にも「カラスがもっていっちゃうよ」と知らせてくれるようになったそうです。今ではきれいに靴箱に入れる習慣がついたとのこと。社会のルールや生活習慣を身に着けるときは、それを伝える大人の力量が試される時ではありますが、生き物やファンタジーの世界に助けてもらいながら、楽しく生活習慣をつけることができるといいですね。



先日は3歳児の担当の先生たちで、4月の子どもたちの姿を振り返りました。子どもが今どのような思いでいるのか、どのような心が育ちつつあるのかを写真を元に語り合いました。先生たちが語る子どもの心情がとても豊かに汲み取られています。子どもたちと向き合うことを楽しんでいることがわかる言葉であふれていました。絵美先生が撮った写真には、泣いている子どもたちを抱っこしている先生たちの表情がどれも温かい笑顔であることを話してくれました。子どもが安心安定に向かっていくことを信じて、子どもの思いに丁寧に寄り添っているそんな先生たちでした。

さて5日は「子どもの日」でしたね。今年も、出生率の低下のニュースが流れていました。昨年5月の副園長通信では「30年ほど前は、15歳以下の子どもがいる家庭が全世帯の約半数でした。ところが今は、全世帯の5分の1に減少しているそうです。衝撃の数値です。」とお伝えしました。少子化が止まらないこの国は、もっと本気で対策を講じなければ、国を支えることができなくなるかもしれません。「産みやすく育てやすく・・・」が鍵だと言われてはいますが、私たちにできることのひとつとして、子どもを育てることの大切さや子どもの育とうとする力の素晴らしさを広く社会に発信していくことだと思っています。私は大阪府私立幼稚園連盟のプロジェクトチームの6年間にわたる非認知的能力の研究に参加してきましたが、その研究結果も踏まえて、リーフレットを作成し、ようやく完成することができました。皆様にお配りする予定ですが、これを子育て家庭だけでなく、行政関係者や、一般の方々手に取っていただき、目に見えにくい子どもの育ちを理解し、子育てを社会で支えていくことの重要性を理解していただきたいと思っています。

連休中に感じたことをいろいろ書いてしまいました。

再来週からクラス懇談も始まりますので、また、子育ての悩みやご意見聞かせてくださいね。

